

2022年12月27日

松本シュタイナー認定こども園ひなたぼっこ

園長 神澤 真江

## 2022年度 保育所による自己評価 結果報告書

### 1. 保育理念 ～里山の自然・資源・ひとを生かす～

#### ◎自然との共生（里山の暮らしの中に子どもの育ちがある）

幼児期に必要な感覚や生活力を育てるため、自然との密接な関わりの中での活発な活動と、室内での静かな環境における生活の両方を大切に、里山の暮らしを通して子どもも大人も育ちあう。

#### 【保育の3本の柱】

##### (1)リズムと繰り返し

毎日の生活リズムの繰り返しを重視し、「静」と「動」、「集中」と「拡散」、個々と集団のバランスをとることを意識した保育を行う。

##### (2)シュタイナーの人間観に基づく子どもの観察

子ども一人一人を様々な角度から見つめ、個性に合わせた保育を行う。

##### (3)協同運営

家庭と園が連携し、子どもの心身ともに健やかな成長を見守る。協同で園の運営を行い、良好なコミュニティの場を作り、共有する。

### 2. 保育所による自己評価結果

評価：A 良い、B 概ね良い、C 良くない

評価項目		評価
1. 保育目標について		
1	保育目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	A
2	目標は、施設や地域の特色を生かしているか	A
3	目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか	B
4	目標は前年度の反省を活かしているか	B
5	目標は全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	B
2. 保育について		
6	指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか	A
7	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか	B
8	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか	A
9	素材・用具を適切に活用しているか	B
10	評価結果を基に保育の改善に努めているか	B
3. 日時程について		
11	1日の流れ（デイリープログラム等）は現行で良いか	B

評価項目		評価
4. 行事について		
12	行事の種類や実施回数は適切か	B
13	行事のねらいを計画や実施に十分活かしているか	B
14	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか	B
15	計画・実施・評価・改善の体制をとっているか	B
16	保護者の願いや意見を取り入れているか。	B
5. 分掌・体制について		
17	能率的、合理的な運営組織になっているか	B
18	職務内容が明確で、協働できる体制になっているか	A
19	職員の配置は適材適所か	B
20	係や仕事の分担・割り当ては適切か	B
6. 運営について		
21	各種会議を適切かつ効率的に進めているか	B
22	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか	B
23	打ち合わせ回数、時間、内容は適切か	B
7. 年齢別保育について		
24	年齢別目標は保育目標や重点目標に基づいて設定しているか	B
25	年齢別目標は乳幼児の実態に即して設定しているか	B
26	年齢別目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか	B
27	同年齢及び異年齢間の効果的な活動の充実を図っているか	B
28	意義や趣旨を理解した保育を行っているか	A
29	評価、資料を集積しているか	B
8. 保健・安全指導について		
30	年齢別保育に活かされるような具体的保健対策を講じているか	B
31	避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか	A
32	健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか	A
33	乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	A
9. 所内研究・研修について		
34	研究主題は保育目標の具現化につながるものであるか	A
35	所内研修の計画・運営は適切か	B
36	研究の成果を日常の保育に活かし、乳幼児の育ちに反映させているか	B
37	研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか	A
10. 所外研究・研修について		
38	各種研究会、研修会、講習会への参加体制の充実を図っているか	A
39	各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元しているか	B

評価項目		評価
11. 情報について		
40	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか	A
41	公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	A
42	各表簿は適切な時間、方法で作成と処理しているか	B
12. 施設・設備について		
43	施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか	B
44	遊具・用具等を活用しやすいように整理、保管しているか	A
45	不審者等に対応する周到な配慮を行っているか	B
46	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	B
47	第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	B
48	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	B

#### 今後の課題

- 保育内容に関してはおおむね理解があり、子どもに対しての関わりに関しても、子ども一人一人の個性に合わせて成長を促すことができていると実感している保育者が多いことがわかった。今後も子どもに対する気づきを得ること、理解を深めていく時間を保育者会議の中で十分に取り、保育の質の向上を目指していきたいと思う。
- 行事の種類や実施回数に関して、見直しを求める声が若干あることを受けて、来年度の年間行事について何を残し、何をやめるのか、行事の目的意識などを職員間で共有する必要があると考える。
- 保育目標に関して、常勤職員と非常勤の職員との間で認識に差がある。今後は指導計画書を共有し、年齢ごとの現状の把握と課題を全体職員会議でとりあげ共通理解を図るよう努力する。
- 指導計画の周知→実施→振り返りの評価→改善の流れを充実させる為に、業務分掌の整理と会議内容を再考すべきと考える。

### 3. 今年度に取り組んだ重点事項について

- (1) 2・3号認定児及び保育標準時間認定児の受け入れによる、職員配置の充実  
→常勤保育教諭1名を新規雇用したことで早番・遅番の配置が可能となった。
- (2) 子育てサポーター養成講座への参加  
→保育補助者が子育てサポーター養成講座への参加を終了した。
- (3) 掲示板の利用やお便りの充実など、保護者に対する情報開示の仕方の検討  
→掲示板を登降園場所に設置した。またお便り“コリコックレター”の発行を開始した。
- (4) 計画的な職員研修の受講（キャリアアップ講習の受講と内部研修）  
→職員の受講一覧表を作成し、研修進捗を把握するように改善した。
- (5) 職員の働き方改革の推進  
→働き方改革助成金を申請し、業務効率改善のための投資を行った。

以上